

第9回

ここらへんで繁殖のお話し(その9 お産の注意のおはなし)

(有)シェパード 獣医師 松本大策

みなさんはもう読まれましたか？「掃除力」関係の本。掃除をすれば運が開ける、というたぐいのヤツ。僕も読んで、すぐに「これだ！」というわけで数年ぶりの大掃除をしました。松井棒も自作してトイレからなにかから徹底的にやりました。そしたら、元旦早々愛犬は子宮蓄膿症で死にかけるし、メインコンピュータは青い画面のまんま動かなくなるし。もう開運本なんて当てにしません。やはり運は自力でつかまなきゃ。でもどうやってつかんだらいいんでしょう？

母牛の繁殖のお話し 9

前回は、分娩の準備のお話しをしましたが、今回はお産本番のお話しをしましょう。

分娩がはじまる

お母さん牛は、分娩前にいろいろな兆候を示します。そわそわしたり、食欲が低下したり、体温が低下したり(分娩前30時間くらいから体温が1℃くらい下がってくる牛さんが多いそうです)、おっぱいが張ってきたり、スソがゆるんだり。でも、いずれも個体差があって、全く前兆なし、というお母さんもいるので気を抜いてはいけません。やはり予定日をきちんと把握しておくことが大切です。

分娩の順序



一次破水の袋(尿膜)

二次破水で、中の液体が羊水です。

最初に陰門から茶色っぽい風船が出てきます。胎児を覆う二重の膜の1つ、尿膜で、その中身は尿膜水です。これがはじけるのが一次破水で、そのあとに二つ目の風船が出てきます。これが羊膜で、一つ目の風船と違って白っぽい色をしていて中に胎児の足が見えることが多いです(それで足胞ともいいます)。これが破れて中の水が出てくるのが

ここで注意しなければならないのは、たまに二次破水が先に来る牛さんがいることと、一次破水を見落としてしまうと、二次破水を一次破水と勘違いしてお産に間に合わない場合がある、ということです。





さて、二次破水が終わったら、いよいよ子牛が出てきます。このとき子牛の両前足と頭が産道に乗っていればまず一安心ですが、片足しかないとか、頭が見つからないとか、後足が出てきている、なんて言うときには胎児の失位で難産になりやすいので注意しましょう。前足と後足の見分け方は、手を消毒したあと産道につっこんで、足首の上に前膝が

あるかかかと(飛節)があるか、で見分けます。

胎児の失位の場合は、難産につながる事が多いので、可能ならばこの時点で獣医さんをお願いしましょう。両前足があつて頭が産道にない場合は、前足を子宮の奥に押し込んで頭を探す方法がありますが、慣れないと難しいものです。



産道に頭と前足がきちんと乗っている場合は、前足の足首の上の部分と頭にロープをかけると引っ張りやすいです。足首よりも下にロープをかけると足首の脱臼とかやらかす場合がありますからね。頭へのロープのかけ方ですが、両耳の下を通るようにして後頭部にロープをまわして口の中で結びます。長いロープかテープを使って猿ぐつわをかける要領で結び目が口の中に来る

ようにすると、決して首を絞めることなく引っ張ることができます。

最近、大型の系統が増えてきました。「お母さん牛が大きいから大丈夫！」なんて油断しちゃダメですよ。お母さんが大きいと、子供もデカイのね。そういう難産にさんざんつきあってますから。あ、しゃれじゃないですよ。

